

UNICEF NEWS in みやぎ

Vol. 48
ユニセフ・ニュース
2008年1月
unicef 

ユニセフ（UNICEF：国際連合児童基金）は世界の子どもたちの命と健康を守るために活動する国連機関です。第二次世界大戦で被災した子どもたちへの緊急支援を行うため、1946年の第1回国連総会で創立されました。

現在ユニセフは「児童の権利に関する条約（子どもの権利条約）」で定められている子どもの「生存」、「発達」、「保護」、さらに「参加」の権利を実現するため、保健、水と衛生、栄養、教育への支援、困難な状況にある子どもの保護、緊急事態下の子どもの救援をその国の政府やNGO（非政府組織）、地域の人々とともにを行っています。

子どもたちのお腹は、膨らんでいるのに、空っぽです

子どもたちのお腹は、たんぱく質が足りず、
血液中の液体がお腹の中にしみ出してしまいうから、膨らんでいるのです。

子どもたちの命と未来を左右する栄養

防げるはずの病気が原因で、年間 970万人の幼い命が失われています。
この死の53%に栄養不良が深く関わっていることはあまり知られていません。目に見えにくく、ひそかに子どもたちの未来と命を脅かす…。
栄養不良の恐ろしさはそこにあります。



ベトナムの3歳の女の子フォンちゃんは、身体が小さく1歳くらいにしか見えません。下痢を繰り返し、いつもせきをしています。ソマリアのハッサン君は、もう走り回っても良い年齢ですが、力なく座り込み、歩き出す気配もありません。弱々しい泣き声をあげ続けています。二人に共通しているのは、限られた食材しか口にしていないということです。栄養が偏って、骨や筋肉・血液など身体をつくる基となる大切なたんぱく質が不足しているのです。また、免疫力をつける働きビタミンAなどが足りないので、病気にかかりやすく、基礎体力がないので風邪や下痢で命取りになってしまいます。さらに栄養不良の恐ろしさは、身体だけでなく、知能の発達を遅らせる危険があることです。知能の発達の遅れは取り戻しにくいと言われます。栄養不良はこうして子どもたちの未来をも閉ざしてしまうのです。栄養が行き届けば、年間500万人の子どもの命を救える可能性があります。たとえば、ビタミンAの補給は、低コストで驚異的な効果が得られます。小さなカプセルに入ったビタミンAの一滴が子どもたちの命の可能性を2倍にします。

子どもの未来は、栄養が握っているのです。子どもたちの生きる力と未来の日々を奪わないために、私たちにできることを考えてください。そしてユニセフの支援活動を知ってください。ユニセフは、世界中の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動しています。



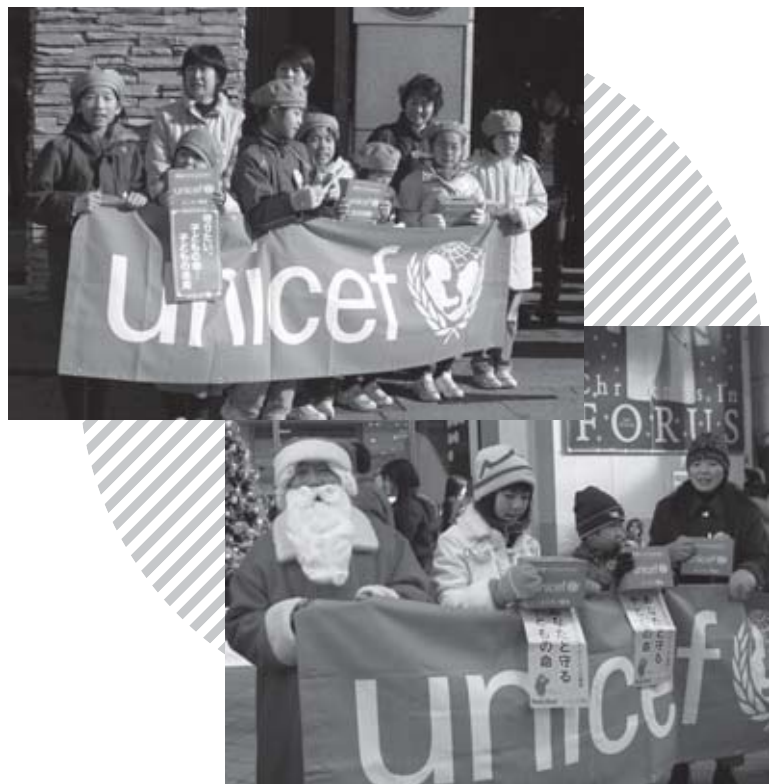
第29回ユニセフ ハンド・イン・ハンド募金

～あなたと守る 子どもの命～

「ハンド・イン・ハンド」とは、世界の子どもたちの生命と健康をまもるためにボランティアを募り、全国一斉に街頭や身の回りでのユニセフ協力を呼びかけるユニセフ募金のキャンペーン活動のことです。11-12月をハンド・イン・ハンド月間とし、毎年全国一斉に街頭、職場、学校、家庭などで、自分たちのできる方法でユニセフ募金活動を展開しています。(去年は全国1600箇所以上で実施されました。)

宮城県支部では、12月16日(日)に仙台市青葉区のフォーラス前や佐々重ビル前など2ヶ所で行いました。ガールスカウト宮城の第1団・8団・10団・12団の皆さん35名とボランティア30名が参加し、師走の街行く人々に「世界の子どもたちのために、ユニセフ募金にご協力お願いします」と元気よく呼びかけました。たくさんの方々が立ち止まり、募金に協力してくださいました。皆様のあたたかいお気持ちが伝わってきて、寒さが吹き飛ばすひとときでした。この日の募金額は130,575円でした。

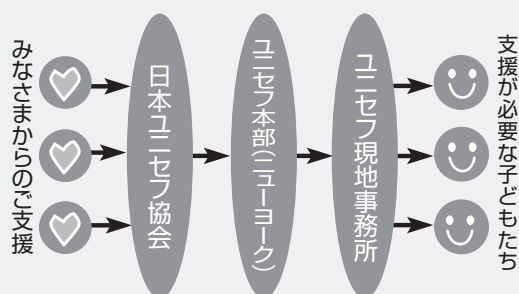
毎年失われる5歳未満の幼い命970万人。その53%は栄養不良が原因です。救えるはずの幼い命、年間500万人。・・・皆様のご支援が必要なのです。



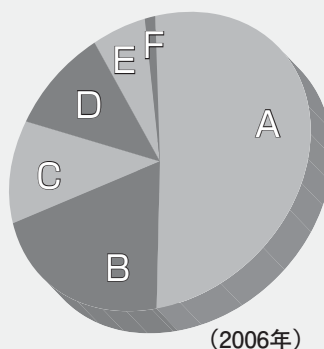
あなたのご支援は、さまざまな分野で子どもたちを守るために活用されます。

お寄せいただいた募金は、栄養不良の改善など、世界の子どもたちの生命と健康、権利を守るさまざまなユニセフの活動に大切に使われます。

【募金の流れ】



【活動分野別の支出割合】



- A 栄養不良の改善など、子どもの命を守り、成長を支える活動(51%)
- B 子どもの教育、ジェンダー格差をなくす活動(21.2%)
- C 子どもの権利を守るための調査と分析、パートナーシップ(11%)
- D 児童労働、ストリートチルドレンなど、子どもの保護(10.2%)
- E エイズ孤児の支援、予防教育など HIVエイズの取り組み(5.5%)
- F その他(1.1%)

■ 「世界の国々に思いを馳せた一日」

9月23日(日)、「せんだい地球フェスタ」が仙台国際センターで開催されました。宮城県支部も参加し、ユニセフ製品の頒布や資料の配布などユニセフ活動の紹介を行いました。当日の場所は二階の奥の方でしたが、「ユニセフ製品は定価の50%が募金になります」と声がけをし、3万7千円の取り扱いがありました。また、ユニセフ・ボランティアを希望する方もいました。様々な出展の中、留学生の方々が母国の紹介をしていました。「国のことを知ってもらうのはとても嬉しいです。」と笑顔で話していたルーマニアの方もいました。ユニセフの活動はどうしても漠然とした印象になるとの意見をいただいたことがあり、相手の国の顔が見えることが大事なのかな、と思ったりしました。



例えば、大きな災害があると、世界の注目が集まり多くの支援が届けられます。良いことなのですが、一方で多くの子どもたちが幼いうちに命を失っていることがあまりに日常的で、あるいは多くの国々の中に埋没しているために報道されない危険があります。世界の注目を集めはしない、しかし、深刻な「静かな緊急事態」。ユニセフでは、そのような国々で地道に活動しています。そのことを皆さんにもっとお知らせをして、なにかで関心をもった国の事とそこのユニセフの活動を身近に感じてもらい、理解を深めてもらう。その積み重ねが関心を持続してもらうことになるのかなと思いました。その意味では、現地で活動している方を迎えての報告会などは非常に有意義だと思います。遠き世界の国々に思いを馳せながら、いろいろなことを感じた一日でした。

————— ボランティア 橋本昭浩

■ 報告会「報道されない素顔～パレスチナの子どもたちと4年半」

10月25日(木)、仙台市市民活動サポートセンターにおいて、NPO法人「地球のステージ」のスタッフとして活動している寺畑由美さんの、パレスチナより一時帰国しての報告会を開催しました。自由が制限されたガザ地区ラファで暮らす人々の生活や、毎日の子どもたちとの活動の様子を、スライドを使ってのお話しでした。少年・少女たちの「今を語る生の声」が入ったビデオ映像(日本語字幕付き)は印象的でした。



高校生から70代まで70名の参加でした。参加者からの感想を一部紹介します。

- 紛争の地と言われるが、普通の人々にとっては迷惑なだけ。爆撃の音もなく、平穏に学校に通って、将来の夢が描ける日常が訪れることを祈りたい。
- あたたかい気持ちを向けることが支えになることを知りました。

◆◆◆◆◆ 寺畑由美さんプロフィール ◆◆◆◆◆

ドイツ生まれ、17歳までニューヨークで育つ。慶応大学総合政策学部卒業。2003年5月に、NPO法人「地球のステージ」(本部・山形)の現地駐在員としてパレスチナ・ガザ地区最南端の町・ラファに住み、国境線沿いや(元)入植地の周辺に住んでいる青少年を対象にした心理社会活動を展開中。

■ 「写真展から学んだこと・・・」

2007年9月30日から2週間開催された、グループエルモリア主催の「ぼくの出会ったリベリアの子どもたち」高橋邦典写真展を見してきました。高橋さんが2003年リベリア内戦中に会った4人の子どもたちを内戦後に探し出し、2004年～2006年12月まで継続的にリベリアを訪れ、子どもたちの生活を撮った写真40点が中本誠司現代美術館の1階に展示されていました。

その中で、反政府軍の打ち込んだロケット弾の炸裂で殺された息子の亡骸の前で泣き崩れる父親の写真がありました。平和な日本では道に転がる死体などは、よほどのことがない限り見ることができません。9～10歳という少年たちが、自分の背丈ほどもある銃を抱えて戦っている写真や飛んでくる弾劾から身を伏せながら水を汲みに行く女の子の写真など。

日本に暮らしている私ができることは、高橋さんのメッセージの一部をお借りして、「世界で起こっている現実を正しく知ること、そして他国に住む人々の気持ちを考え、自分自身の意見を持つことではないでしょうか？それが将来の紛争地をひとつでも減らすための第一歩になるのではと信じています。」とありました。さまざまな情報の中から、世界で起こっている現実を正しく知る努力をしたいと思います。



————— ボランティア 松倉一江

お知らせ

これからの予定です。皆様の参加をお待ちいたしております。

◆ユニセフ・フィリピン・スタディツアー報告会

2007年11月にフィリピンにおけるユニセフの支援内容を視察した状況の報告

①レイテ島地滑り緊急復興支援の状況 ②ストリート・チルドレンと子どもの保護

日時：2008年2月8日(金)10:30~12:00 会場：みやぎ生協文化会館ウイズ教室1

報告：日本ユニセフ協会宮城県支部事務局長 五十嵐栄子

参加費：無料 事前に参加申込みをお願いします(022-218-5358)

主催：みやぎ生協国際協力委員会 共催：日本ユニセフ協会宮城県支部



◆ユニセフ入門講座

①ユニセフってなに ②子どもの権利条約について ③私たちにできること

日時：①5月27日(火) ②6月17日(火) ③7月8日(火) 各10:30~12:30

会場：みやぎ生協文化会館ウイズ 講師：ユニセフ・ボランティアスタッフ

参加：無料 事前に参加申込みをお願いします(022-218-5358) 主催：日本ユニセフ協会宮城県支部



ユニセフ募金報告 (2007年9月~12月：宮城県支部預かり)

(一般募金)

仙台市立西中田小学校

仙台市立湯元小学校 あかつき児童会

大崎市立沼部小学校 あおば児童会

大郷町立大松沢中学校

登米市立横山小学校

わかば児童会

宮城県

気仙沼高等学校

仙台市立旭丘小学校

6学年

登米市立東和中学校

石巻市立釜小学校

若葉児童会

大衡村立大衡中学校

角田市立枝野小学校

加美町立鹿原小学校

3, 4年

登米市立米岡小学校

加美町立鹿原小学校

6年生

大崎市立鳴子小学校

こけし児童会

白石市立福岡中学校

3学年

美里町立練牛小学校

若葉児童会

仙台市立虹の丘小学校

聖ドミニコ学院小学校

登米市立加賀野小学校

杉の子児童会

石巻市立開北小学校

JRC委員会

涌谷町立涌谷第一小学校

登米市立南方小学校

ふたば児童会

利府聖光幼稚園

塩釜聖光幼稚園

気仙沼市立唐桑小学校

児童会

仙台市立沖野小学校

美里町立北浦小学校

仙台市立南小泉小学校

石巻市立蛇田小学校

船岡小学校

さくらプロジェクト

宮城一般労働組合

みやぎ生協支部

吉岡児童館

ひだまりクラブ

尚綱学院大学生協

学生委員会アリスクラブ

東北大学生協協同組合

宮城教育大学生協協同組合

仙台国税局診療所

高木さん、金子さんお帰りのなさいの会

丸善(株)仙台アエル店

みやぎ生協国見ヶ丘店 グループサークル発表会

みやぎ生協石巻渡波店 虹のつどい&産直まつり

みやぎ生協高砂駅前店 産直まつり

みやぎ生協石巻大橋店 わいわいフェスティバル

みやぎ生協アイトピア店第1回わいわいフェスティバル

みやぎ生協大富店まつり

みやぎ生協岩沼店 秋まつり喫茶コーナー

みやぎ生協高森店 大産直市

みやぎ生協虹の丘店 産直まつり

みやぎ生協柏木店 秋祭り

みやぎ生協高砂店 500日祭GC発表会

みやぎ生協名取西店 秋まつり&GC発表会

みやぎ生協桜ヶ丘店 第10回フェスティバル

みやぎ生協国見ヶ丘店 秋のメンバー祭り

みやぎ生協大代店 産直収穫祭

みやぎ生協西多賀店 フリーマーケット・産直祭り

みやぎ生協貝ヶ森店 秋まつり&GC発表会

みやぎ生協明石台店 秋まつり

みやぎ生協名取西店 秋まつり

みやぎ生協八幡町店 秋まつり

※他にも、個人の皆さまからのご協力をいただいております。



(12月21日 蛇田小学校にて)



(10月30日 気仙沼高校にて)

~ご協力ありがとうございました~

(財)日本ユニセフ協会宮城県支部

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 みやぎ生協ウイズ内

Tel 022-218-5358 Fax 022-218-5945 E-mail:unicef@miyagi.coop.or.jp

月曜~金曜日 10:00~16:30

URL <http://www.unicef-miyagi.gr.jp>

宮城県の会員数

団体： 3

一般： 193

学生： 14

お知らせは随時更新しています。